

再び学生諸君に呼びかける

昨年12月16日付のパンフレットにおいて、われわれの考えの一端を述べましたが、重ねて二、三の点について述べたいと思います。

このよき文書や、諸君との直接の討論、話し合いによって、相互の理解を深め、よりよい学園を創る道を着実に進んでゆきたいと願っています。

昭和44年1月23日

日本大学理工学部教授会
学部長代行
木村秀政

(1) われわれは、教育と研究の場としてのよりよい大学を創り、守つてゆくわれわれの大学には、好ましくない点があります。この点についてわれわれも充分反省し、今後とるべき態度について真剣に考えています。

諸君の中には、このような大学は徹底的に破壊してしまふべきであるという意見もあるようです。しかしわれわれはこの意見には賛成できません。われわれは学園の好ましくない点を改めつつ、よいものを付け加えてゆくことによって学園をよりよい大学に育ててゆけると信じています。何がよいものであり、何が悪いものであるかは人生観、世界観の相違によって急には意見が一致しないかもしれません。それについては今後とも充分に考え、討論を重ねたいと思います。われわれの学園はそのような討論の場でもあります。

(2) 理工学部は自主運営方針をたぬく今回の紛争の原因は、経営優先による教

学権および学生自治の阻害にあると考えられます。われわれはこれを改めるため、(1) 制度上の改革を志す「審判行為の改正」の方向を明らかにすることについて、全学の先頭に立ちました。

(2) 9月初旬の法的強制措置に強く反対し、理工学部についてはこれを阻止しました。(3) 学則31条およびその準則の撤廃を全学にさきがけて行ないました。

(4) 12月16日の全学一斉の授業再開の強行に反対し、理工学部は独自に全学学生諸君との話し合いによる解決に努力しています。

このようにして今までの体制を改めるよう努力していますが、これには、いろいろの困難があります。われわれはこのような困難を排して大学の教学権を守るため、自主運営を貫いてゆきます。

学問の自由を保障する「大学の自治」の慣行を支えとし、教育研究が実際に行なわれているという事実の規範を示して、実績を重ねてゆけば、必ずやこの自主運営の方針を貫いてゆくことができるものと信じています。

(3) 9項目要求に対する理工学部教授会の見解を守る

われわれは先に学生諸君に示した9項目要求に対する見解を守ります。もちろん理事会の意向によってはいろいろ困難があるかもしれませんがこの基本姿勢をくずさない決意です。これを守ることはすでに述べたわれわれの改革の決意にも一致すると思っ

ています。

(4) 授業再開を提案する
日大闘争はまだ目的が果されていないとして学園封鎖が続いています。われわれは

長が立会ったが、27日の理工学部教授会代行および部長の処置はさきに承認された(第31回教授会「昭43.11.14」)警察力に対する理工学部の方針に反しない事を確認した。

教授会と理闘委との交渉経過

—教授会の話し合い路線—

。12月4日に11名の教授と理闘委とが1号館のバリエードの中で話し合いがあった。これは父兄会実行委員会の努力によるもので、学部集会への予備折衝として期待されたが12月2日になって理闘委が拒否したため実現しなかった。

。12月16日、教授会は「理工学部学生諸君へ呼びかける」というパンフレットを発表した。これは全学学生に教授会の姿勢を示すと共に、理闘委との討論集会の資料としようとするものであった。

。12月19日、教授会は、学部集会を計画、1月6日を第1予定日とし、8日、10日を予備日として両国講堂を確保して12月20日に理闘委に申し入れた。

。これに対して理闘委は予備折衝を12月28日に開きたい旨申し入れて来たので、教授会はこれを学部集会を開く目的・理由については討論会として受けることにした。その後会場についての折衝は難航を極めた。

。理闘委はあくまで1号館151講堂を主張したのに対し、教授会は「公開」であるべき原則から、多数の学生を収容できる5号館を主張した。

。12月28日、開会の直前までこの折衝は続き、結局5号館に決定して開催された。

討論会において、理闘委は教授会発表のパンフレットの内容を激しく非難攻撃し、「このような教授会と話し合うことは無意味である」

学生諸君がこの闘争ですべてにかなりの成果を収めたと考えます。(1)にふれた学園の崩壊もかけて、せつかつ悪い状態を招き、真の大学の理想を追求しようとする道が断たれることを恐れます。この際困難な状況の中で、教育と研究とを復活してゆくことが重要だと考えます。

今、卒業延期、留年を辛うじて避けうる最後の機会です。理工学部は自主運営方針を貫いていく立場から、教育の内容を出来るだけ低下させたくないと考えております。そのため再開はあくまで、現校舎を使って行なわれるべきものと考えています。

以上われわれは、自主運営方針と、学生諸君の自治とを土台にして、学園民主化の決意を一步一歩実現してゆく考えを提案しました。諸君がこの方針を選ぶか、あるいは授業再開を拒否しながら要求貫徹のために関わりかは諸君の意思にかかっています。

理工学部1号館に警察の立入捜索

—予期しなかった新事態—

東大紛争から去る1月18、19日神田で起きた「神田解放」事件について、警視庁は1月26日午前6時すぎ、機動隊約4,000名を動員、日大理工学部1号館、中大1、2号館、明大新・旧学生会館の5ヶ所を暴力行為等処罰に関する法律違反、凶器準備集合、公務執行妨害、強盗脅人、傷害、監禁の6つの容疑で捜索した。

理工学部1号館には丁度学生が1人もいなかったため混乱の生じなかったのは幸であった。またこの捜索には木村学部長代行、斎藤学部